

第 76 回全国植樹祭愛媛県実行委員会 設立趣旨

愛媛県は、西日本最高峰の石鎚山をはじめ、瀬戸内海の多島美や宇和海のリアス式海岸を代表とする、変化に富んだ自然を背景として、多様で豊かな森林が育ち、これまで、県民の生活を幅広く支えてきました。

特に、県民の身近にあるスギ・ヒノキの人工林には、建築資材となる良質な木材が育ち、品質の確かな愛媛ブランド材「媛すぎ・媛ひのき」の供給や新たな木質建材であるCLT（直交集成板）の本格生産も始まるなど、新たな木材利用も広がりつつあります。

また、戦後に植栽された、これらの人工林の多くは、現在、本格的な利用期を迎えており、持続的社会の実現のためには、「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用を一層推進することが、非常に重要となっています。

こうした中で、令和 8 年春に「第 76 回全国植樹祭」を本県で開催することは、極めて意義深いものであります。

この「第 76 回全国植樹祭」では、本県の豊かな森林資源を健全な姿で次世代にしっかりと引き継げるよう、森林の整備や森林資源の循環利用を一層推進する契機とし、森林が育む愛媛の自然や文化、産業を県内外に発信し、全国の方々との「絆」を深める「愛顔（えがお）」あふれる大会とするため、県内の幅広い機関、団体の参画のもと、植樹祭の成功に向け「第 76 回全国植樹祭愛媛県実行委員会」を設立します。

令和 5 年 8 月 25 日